

カリキュラムマップ<看護学科> 2019年度以前入学生

建学の精神 「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく 全学 … 教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。
看護学科…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

- ①科学的根拠に基づけられた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
- ③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づき対象者への看護の実践及び多職種と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意思を持つ看護師

※ディプロマ・ポリシーの番号はP3の該当番号

教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー		
全学方針	看護学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	看護学科	
(1)社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	(1)豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ、対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間					(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 (1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得	生命倫理学	(1)全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、コミュニケーション能力、医療人として求められる能力と態度を身につける。	(1)豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
		人間と社会	社会学 人間関係論 ボランティア論	哲学 教育学 心理学								
		コミュニケーション	基礎演習 文章表現法	コミュニケーション学								
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語								
(2)専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	(2)看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。	人体の理解	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学						(2)看護の専門基礎知識の修得	保健統計学	保健行政論 看護と法律 障害者と福祉	(2)看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。
		疾病の成り立ちと回復の促進		疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論 社会福祉学	病態心理学 カウンセリング論							
		社会の構造と環境										
		健康を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)	基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄)	基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ (基礎看護学実習Ⅱ事前演習) フィジカルアセスメント							
		健康を支えるためのライフサイクル別看護活動	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目及び統合科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。	成人看護学概論 高齢者看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論	成人看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護学概論	成人看護活動論Ⅱ(発展) 高齢者看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅱ(発展) 精神看護活動論Ⅱ(発展)	精神看護活動論Ⅱ(発展)					
看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。	専門領域別実習	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)		基礎看護学実習Ⅱ(発展)	★成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性・終末期) 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎) 小児看護学実習 母性看護学実習	★成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性・終末期) 高齢者看護学実習Ⅱ(発展)	精神看護学実習	(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得 (3)看護の専門知識・技術の修得 (4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を行う実践力の修得		(3)看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。		
(5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。	看護の統合と実践		安全管理論	在宅看護概論	在宅看護活動論Ⅰ(基礎)	在宅看護活動論Ⅱ(発展)	在宅看護論実習	災害看護論 総合判断育成演習 看護の統合実習	(5)看護学に関する課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得		(4)生涯にわたり向上心と探求心をもつ続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。	

★成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期)と成人看護学実習Ⅱ(手術、急性・終末期)は2年後期・3年前期のいずれかで履修する。

カリキュラムマップ<看護学科> 2020年度以降入学生

建学の精神 「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく 教育目的 全学 … 教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。
看護学科…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

- ①科学的根拠に基づけられた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
- ③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づき対象者への看護の実践及び多職種と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意思を持つ看護師

※ディプロマ・ポリシーの番号はP3の該当番号

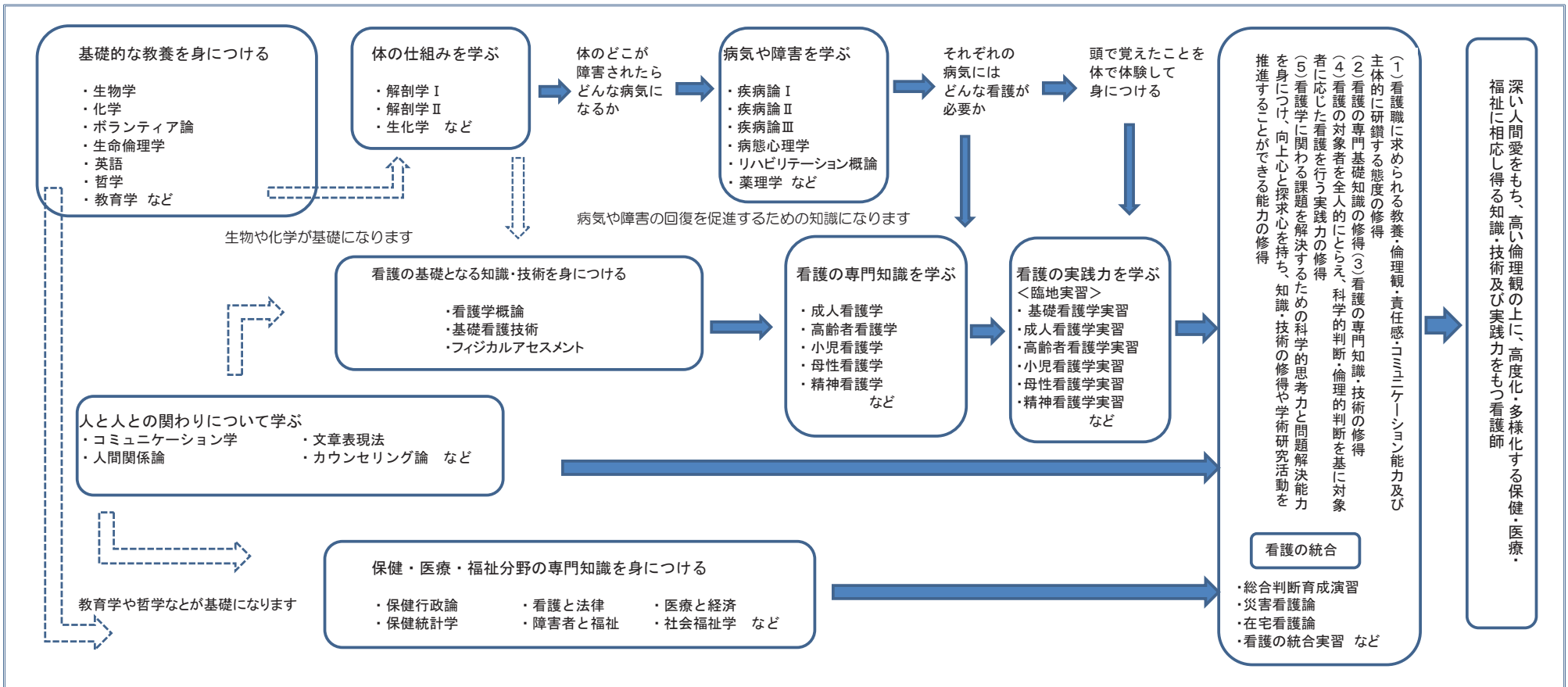
教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー		
全学方針	看護学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	看護学科	
(1)社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	(1)豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ、対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間					(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 (1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得	(1)全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につける。	(1)豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。	
		人間と社会	社会学 人間関係論 ボランティア論	哲学 教育学 心理学 生命倫理学 コミュニケーション学								
		コミュニケーション	基礎演習 文章表現法									
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語								
(2)専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	(2)看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。	人体の理解	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学						(2)看護の専門基礎知識の修得	(2)学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。	(2)看護職として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。	
		疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論 社会福祉学	病態心理学 カウンセリング論							
		社会の構造と環境					保健統計学	保健行政論 看護と法律 障害者と福祉				
		健康を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)	基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄)	基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ (基礎看護学実習Ⅱ事前演習)							
		健康を支えるためのライフサイクル別看護活動	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目及び統合科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。	フィジカルアセスメント 成人看護学概論 高齢者看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論	成人看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護学概論	成人看護活動論Ⅱ(発展) 高齢者看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅱ(発展) 精神看護活動論Ⅱ(基礎)	精神看護活動論Ⅱ(発展)					
看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。	専門領域別実習	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)		基礎看護学実習Ⅱ(発展)	★成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎) 小児看護学実習 母性看護学実習	★成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅱ(発展)	精神看護学実習		(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得 (3)看護の専門知識・技術の修得 (4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を行う実践力の修得	(3)看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。		
看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。	看護の統合と実践		安全管理論	在宅看護概論	在宅看護活動論Ⅰ(基礎)	在宅看護活動論Ⅱ(発展)	在宅看護論実習	災害看護論 総合判断育成演習 看護の統合実習	(5)看護学に関する課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	(4)生涯にわたり向上心と探求心をもつ続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。		

★成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期)と成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期)は2年後期・3年前期のいずれかで履修する。

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

<看護学科>



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

<看護学科>

※学習成果の番号はカリキュラムマップ・関連図の該当番号

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
(2)看護の専門基礎知識の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学 微生物学 疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論 社会福祉学 保健統計学 病態心理学 保健行政論 看護と法律 障害者と福祉 医療と経済 カウンセリング論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得 (3)看護の専門知識・技術の修得 (4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得 (5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔) 基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄) 基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習) フィジカルアセスメント 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ(基礎) 成人看護活動論Ⅱ(発展) 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護学概論 母性看護学概論 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅱ(発展) 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護活動論Ⅱ(発展) 在宅看護概論 在宅看護活動論Ⅰ(基礎) 在宅看護活動論Ⅱ(発展) 安全管理論 災害看護論 課題研究事前演習 課題研究 基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(発展) 成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) 成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎) 高齢者看護学実習Ⅱ(発展) 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護論実習 総合判断育成演習 看護の統合実習	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。